



2013年度

学生生活実態調査 実施報告書

北海学園大学 教育開発運営委員会





このたび、学生生活の実態

把握と教育環境整備などに
活用できる情報を収集するた
めに、本学に在学する学生を
対象として学生生活実態調
査(実施期間:2013年11月
11日~30日)を行いました。

回答のしやすさを考慮し、
マークシート方式を採用しま
したが、17ジャンル、計71問
を設定したため、回収率が低
くなることも予想されました。
しかし、対象者7,070名のう
ち、3,914名(55.4%)から回
答を得ることができました。

本誌は、これらアンケート結
果をグラフ・データ化し、若干
の分析を行ったものです。

※調査結果は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位までの表記とし
ています(一部を除く)。したがってグラフの数字を合計しても100.0%にな
らない場合や、合計欄の数字にならない場合があります。また、文中の數
字は無回答、設問非該当を除いている場合もありますので、必ずしもグラ
フの数字とは一致しません。



contents

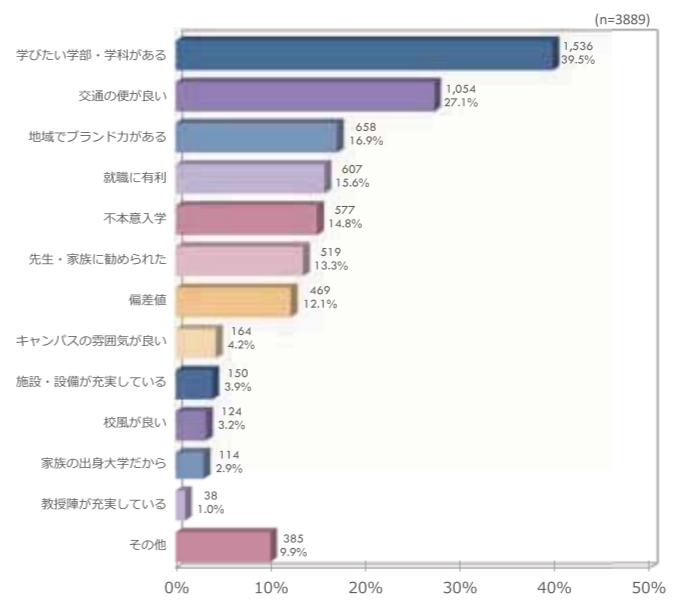
正課活動

入学について	03
履修について	04
授業について	06
オフィスアワーについて	08
情報提供について	09
学習活動について	10
図書館について	12
部活・サークルについて	14
社会貢献活動について	16
住居・生活の状況について	18
仕事・アルバイトについて	19
奨学金について	22
心身の健康について	22
学内施設について	25
IT環境について	28
モラル・マナーについて	30
大学について	31

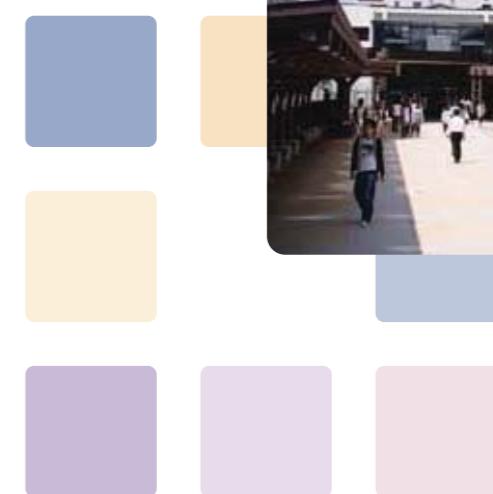
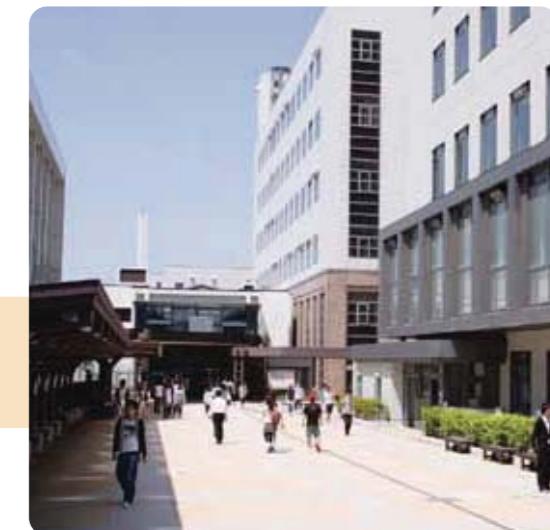
正課外・課外活動

学生生活

1. 入学理由を教えてください。(複数回答可)



大学は学問をする場であるため、「学びたい学部・学科がある」を理由とする学生が多いのは当然ですが、就職を意識して入学する学生の多さも目立ちました（「地域でブランド力がある」が16.9%、「就職に有利」が15.6%）。他方、「キャンパスの雰囲気」「施設・設備の充実」「教授陣の充実」を理由に挙げた学生が少ない点に注目できます。

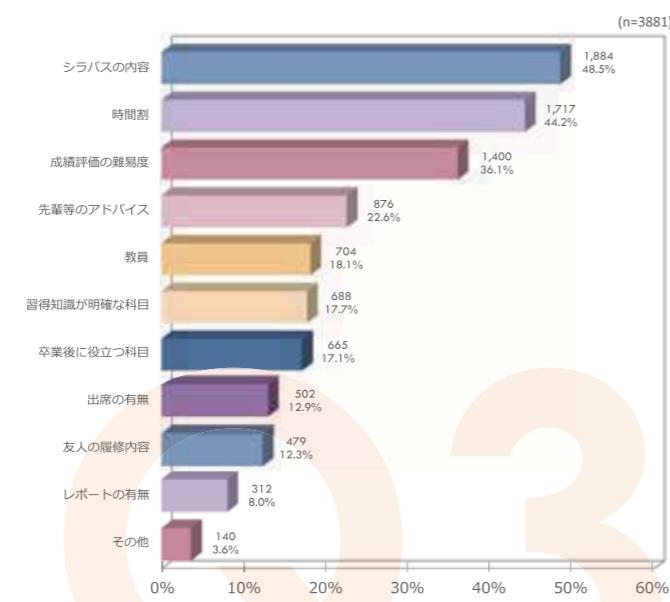


2. 大学でどのような力を身につけたいと考えていますか?(複数回答可)



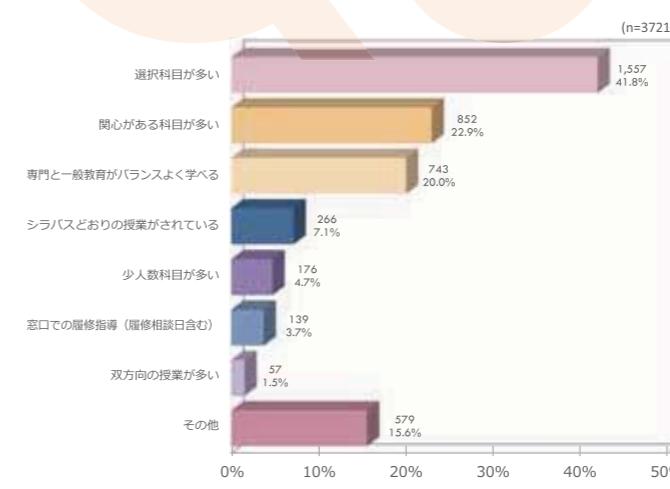
設問1の結果と関係のある結果がみられました。「専門知識の習得」が最多回答となっていますが、「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」といった、社会に出てからも役立つ能力の獲得に、学生は高い関心・期待を抱いていることがわかりました。

3. 履修計画を立てるにあたって何を重視しますか?(複数回答可)



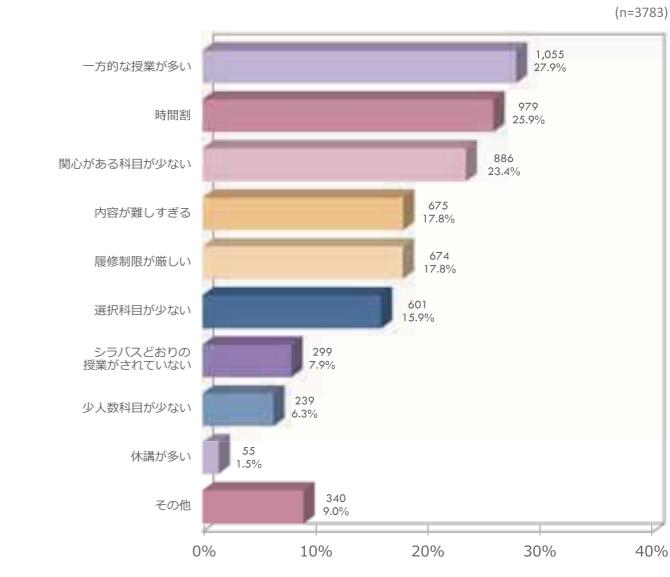
興味深い科目を履修するというのが、多くの学生の履修スタンスではあります、「時間割」(44.2%)、「成績評価の難易度」(36.1%)といった点も、履修決定の大きなポイントになっていることがわかりました。いかに効率よく単位を取得するかが、履修の決定基準になっているようです。

5. カリキュラムや履修について満足している点は何ですか?(複数回答可)



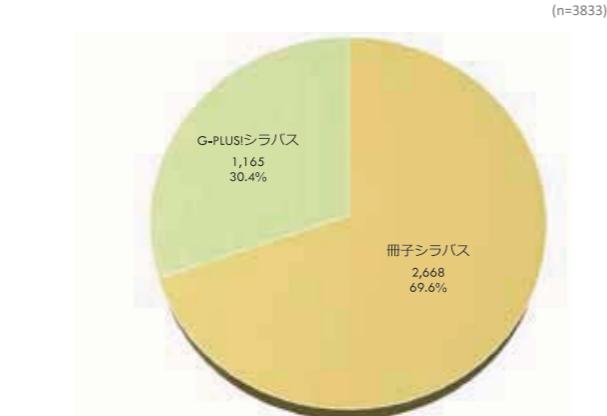
「選択科目が多い」(41.8%)、「関心がある科目が多い」(22.9%)を回答した割合が高く、この結果から、本学のカリキュラムは、さまざまな勉強ができる「機会」を与えるものとなっていると評価されていることがわかりました。ただし、「シラバスどおりの授業がなされている」ことへの満足度は必ずしも高くはなく(7.1%)、「結果」が伴っているかといえば、そうとは限らないようでした。

6. カリキュラムや履修について不満な点は何ですか?(複数回答可)



カリキュラムに対する最大の不満は、「一方的授業が多い」であることがわかりました。双方向授業への転換の必要性が強く叫ばれる昨今、本学も授業改善に積極的に取り組まなければならないことが明確になりました。また「時間割」(25.9%)との回答も多く、この回答については、今後1部と2部に分けて検討する必要があるでしょう。とくに2部での回答が高いとなれば、「開講時間の見直しが、学生確保につながる」との仮説も考えられます。

4. シラバスは主にどちらを利用していますか?

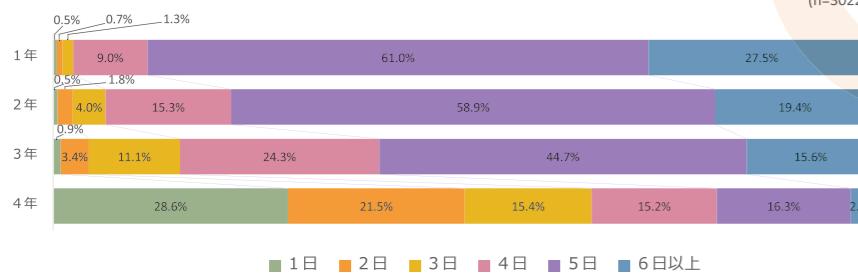


スマートフォンの普及もあり、デジタル環境は急速に整ってきています。にもかかわらず、シラバスについては、「冊子の利用」がまだ主流であるようです(69.6%)。他科目との比較を通じて履修を決めるというケースは多いと思われますが、そのケースでは、やはり冊子に一日の長があるように思われます。この点が、回答結果に現れたのかもしれません。

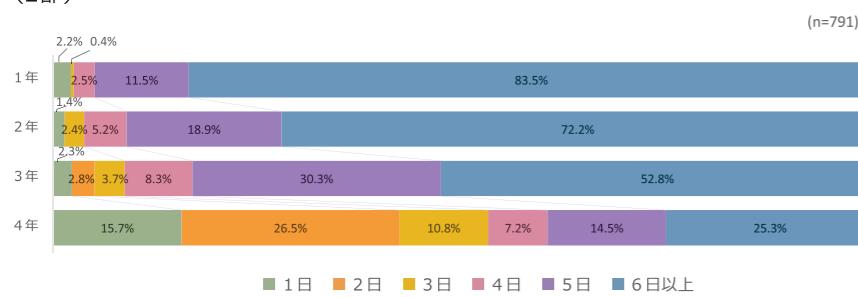


7. 1週間の平均登校日数を教えてください。

(1部)



(2部)



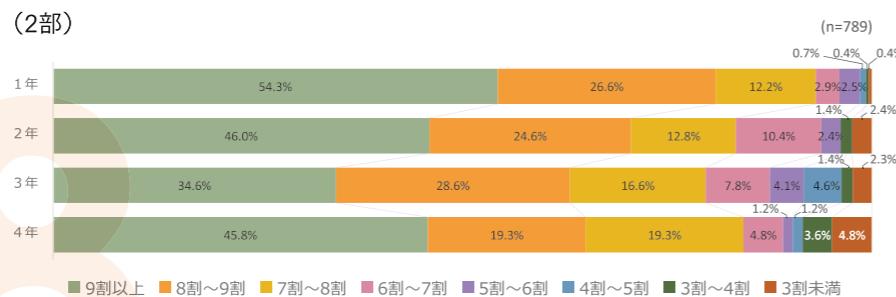
1部と2部に分けて、登校日数を調査した結果、共通して学年が上がるにつれ、少なくなることがわかりました。とくに1部の場合、3年生で単位を取得し終える学生が数多くいることもその一因と思われますが、4年間いかに学生の緊張感を持続させるかが、教育指導上の課題となっていることも、この結果から読み取れました。

8. 1週間の平均授業出席状況を教えてください。

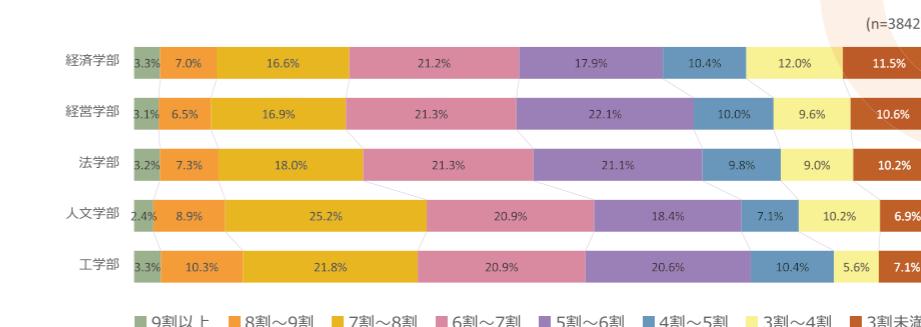
(1部)

出席状況を調査した結果、少々意外な結果が出ました。設問7から登校日数は学年が上がるごとに減る傾向にあるため、出席状況についても同様の傾向がみられる予想されましたが、4年生の出席割合は高いものでした。単位取得状況から、登校する必要が無くなった学生が多くなる一方、単位の残っている学生は単位を取得しようと懸命に勉強しているという状況が、数値に現れたと思われます。

(2部)

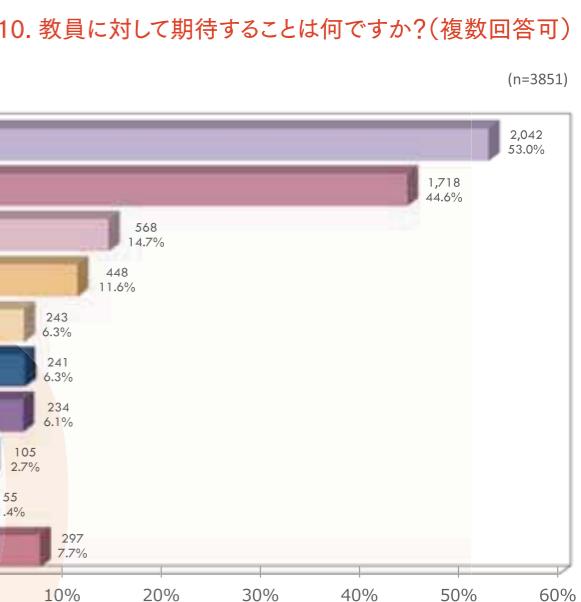


9. 今まで期待に応えていると思った授業はどの程度ありましたか？



授業の満足度を学部ごとに集計したところ、工学部の満足度が比較的高く、経済学部が比較的低いことがわかりました。

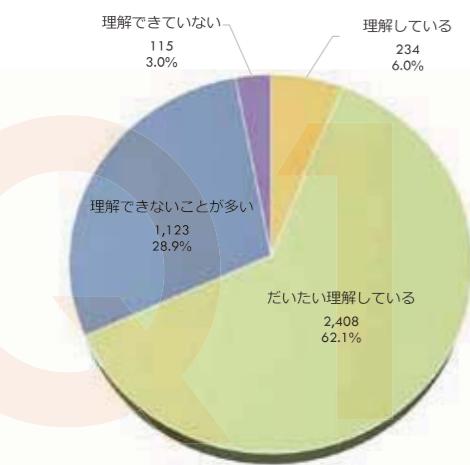
「学問の楽しさを教えてほしい」(53.0%)、「授業内容を充実させてほしい」(44.6%)という回答が多い結果でした。学生にやる気を起こさせる工夫が、各教員に求められている証左であると思われます。



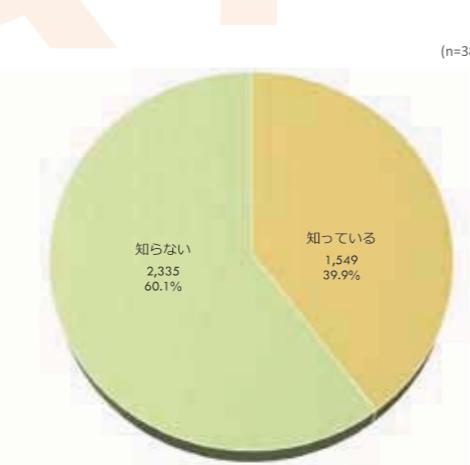
授業について

オフィスアワーについて

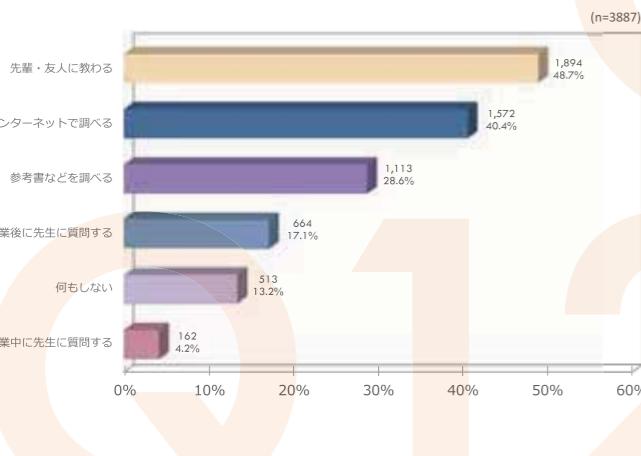
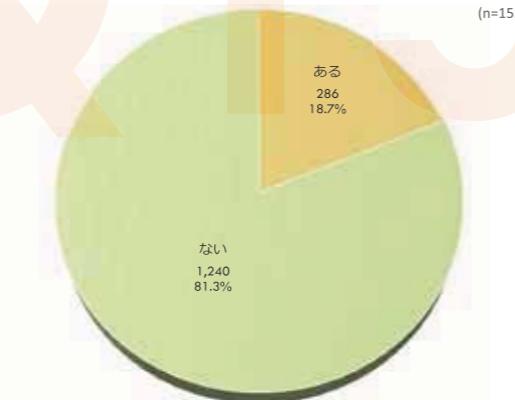
11. 授業について理解していますか?



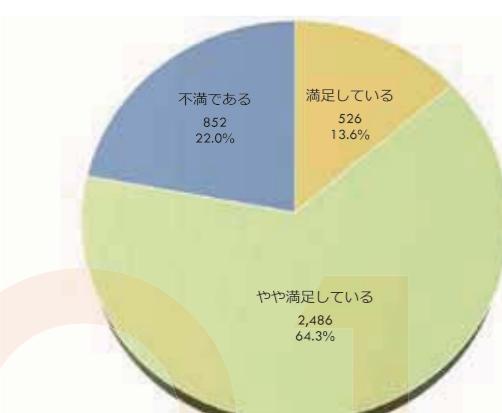
14. オフィスアワーを知っていますか?



12. 授業で理解できないことがあたらどうしていますか?(複数回答可)

15. (14で「知っている」と答えた人にお伺いします)
オフィスアワーを利用したことがありますか?

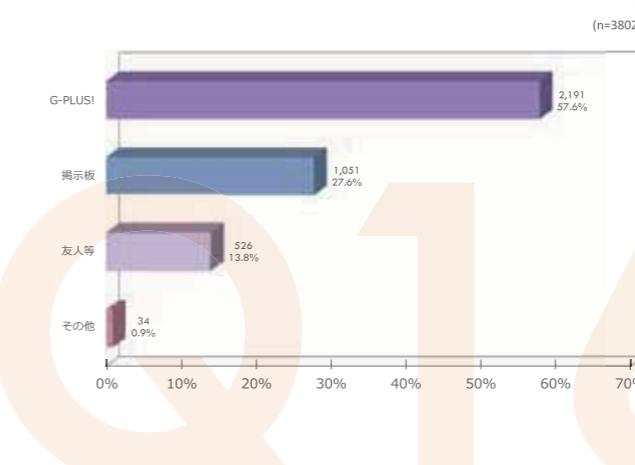
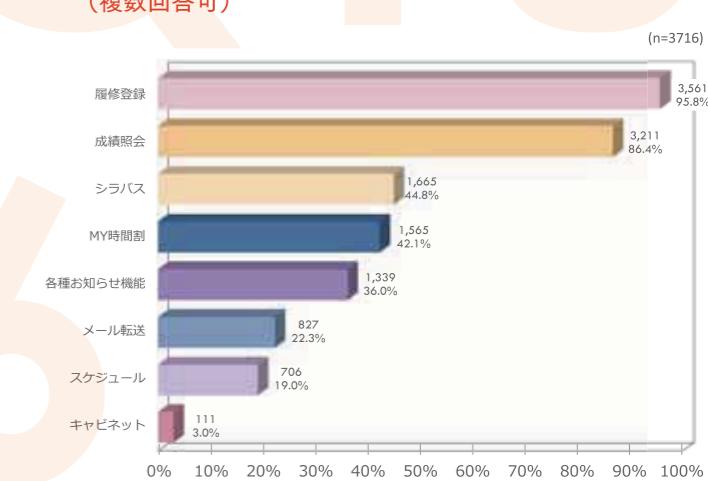
13. 教員とのコミュニケーションには満足していますか?



授業の難易度は、おおむね適当であるようです。理解できない点については、何らの方法を用いて理解できるよう努めていることがわかりました。しかし、教員に質問するという学生の割合が少ない結果でした(「授業中に質問」4.2%、「授業後に質問」17.1%)。教員とのコミュニケーションに「満足している」学生も多くはない(13.6%)こと、オフィスアワーの認知度・利用度が低いこと(「知らない」が60.1%、オフィスアワーを知っていると回答した学生のうち「利用したことがない」が81.3%)も合わせると、気軽に質問できる環境の一層の整備が求められているといえるのではないでしょうか。

情報提供について

16. 講義に関するお知らせは主に何で確認していますか?

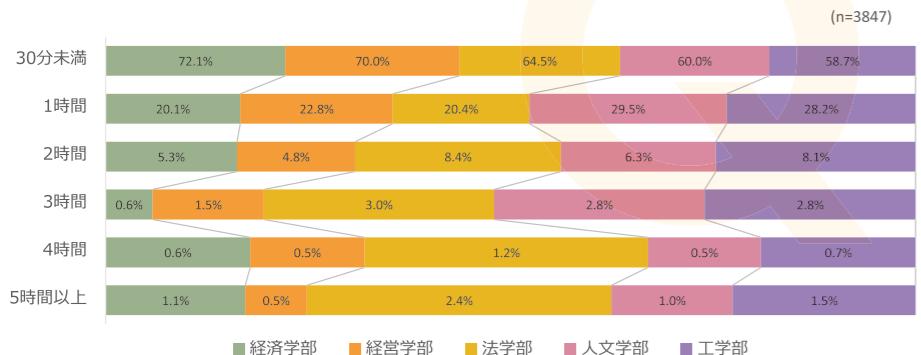
18. G-PLUS!で利用している(したことがある)機能はどれですか?
(複数回答可)

G-PLUS!の利用状況についての質問を行いました。「講義情報の収集」に同システムが活用されているようですが、全体としては「履修登録」(96.3%)、「成績照会」(89.9%)での活用が多いことがわかりました。「知っている機能」と「利用している機能」の順序がほぼ一致していることから、活用法の認知度が高まるような工夫をすれば、活用度はさらに高まるとも考えられます。

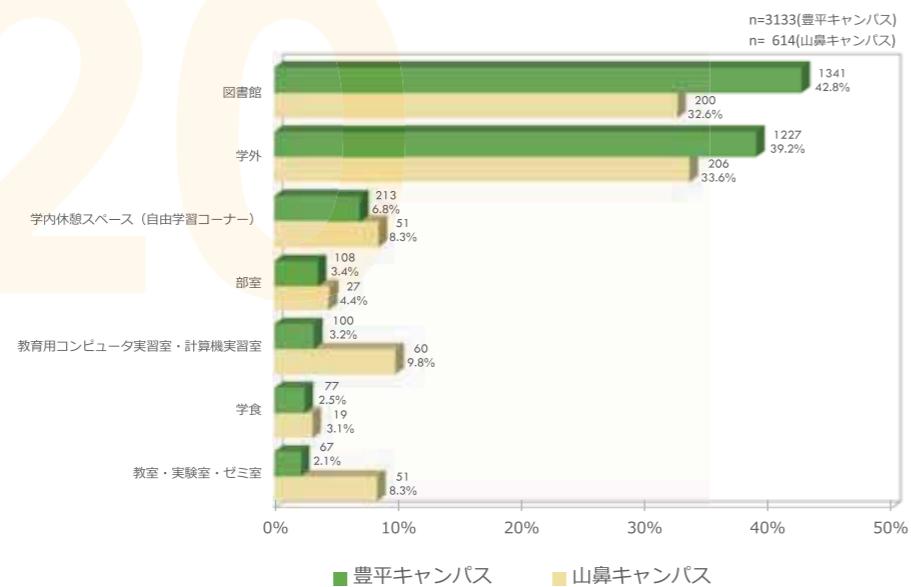


学習活動について

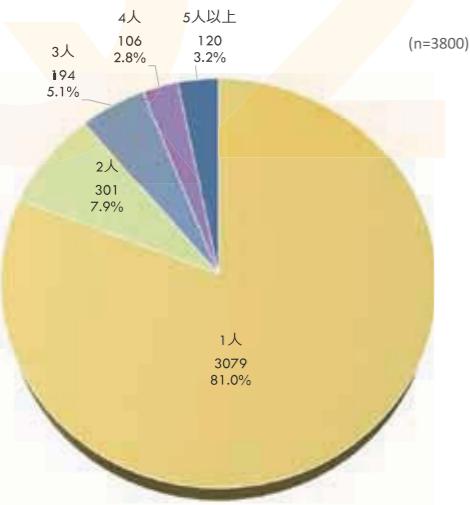
19. 1科目あたりの1週間の平均学習時間(予習・復習)はどれくらいですか?



20. 学習活動(予習・復習)をしている時は主にどこにいますか?

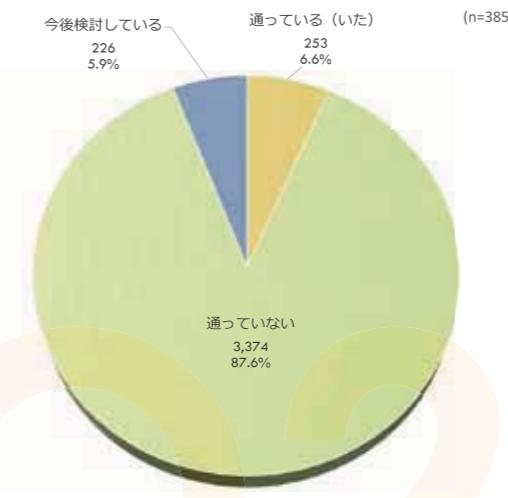
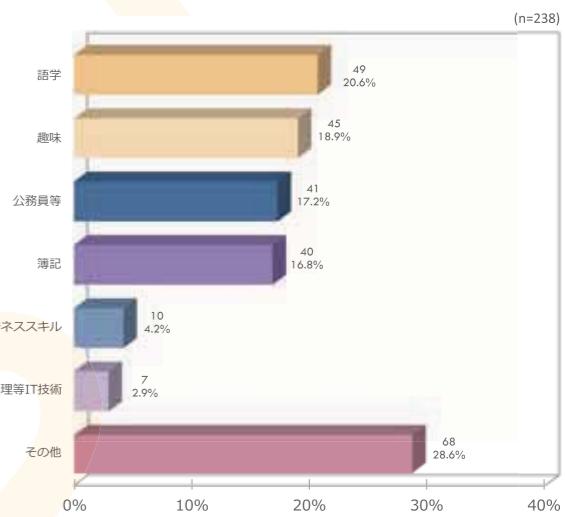


21. 学習活動(予習・復習)をしている時は主に何人で行動していますか?



1科目あたりの学習時間(1週間平均)については、法学部の学生が比較的長いこと、および経済学部・経営学部の学生の勉強不足が明らかとなりました。勉強時間の長短問題は、自習できる環境の整備状況によっても左右されます。そこで、自習場所について質問したところ、「図書館」と「学外」という回答が圧倒的に多く、それ以外の回答はどれも少数でした。また、自習を1人で行う者が圧倒的に多いこともわかりました。これは、主な自習場所が自宅や、声を出しにくい図書館であることと無縁ではないと思われます。

22. 北海学園大学以外の学校(専門学校・予備校・習い事)に通っていますか?

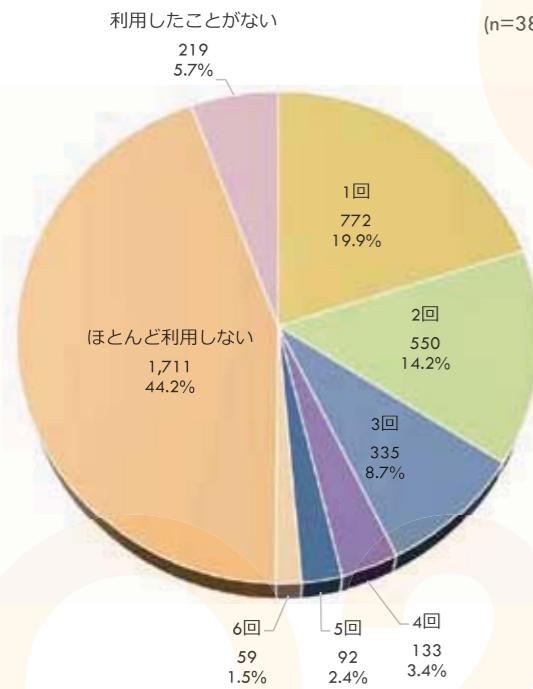
23. (22で「通っている(いた)」と答えた人にお伺いします)
どれに該当しますか?(複数回答可)

いわゆるダブルスクールの状況について聞いたところ、割合としては高くはないことがわかりました。少數ながらも、どのような学校に通っているかをみてみると、「語学」(20.6%)、「公務員等」(17.2%)、「簿記」(16.8%)といった、将来につながる勉強ができる学校へ通うケースが多いことがわかりました。

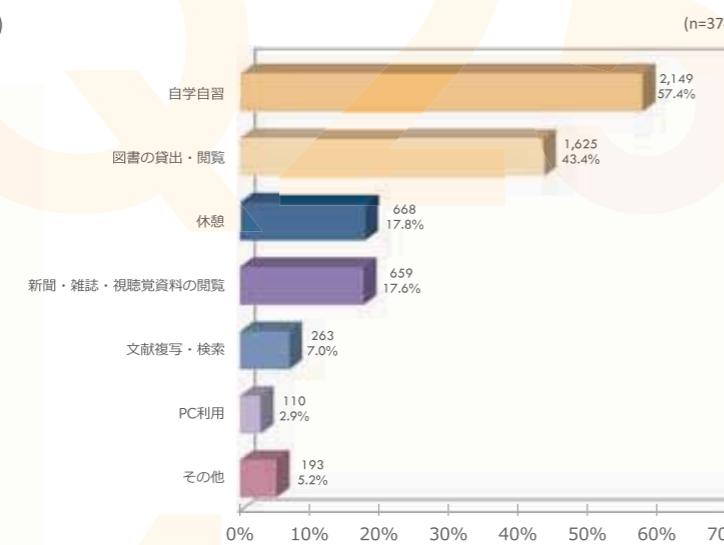


図書館について

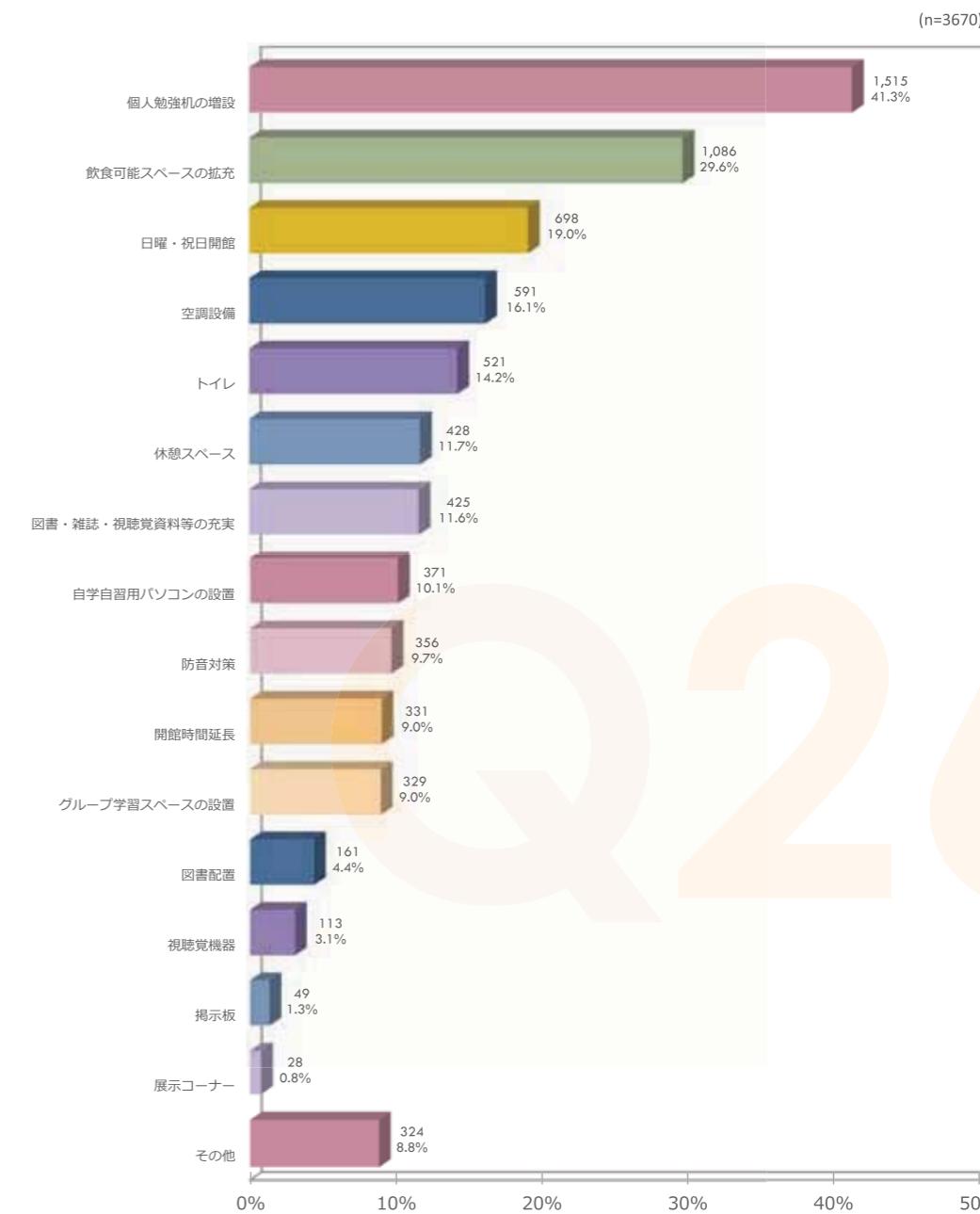
24. 1週間にどれくらい図書館を利用していますか?
(試験期間外の利用)



25. 図書館を利用する目的は何ですか?(複数回答可)



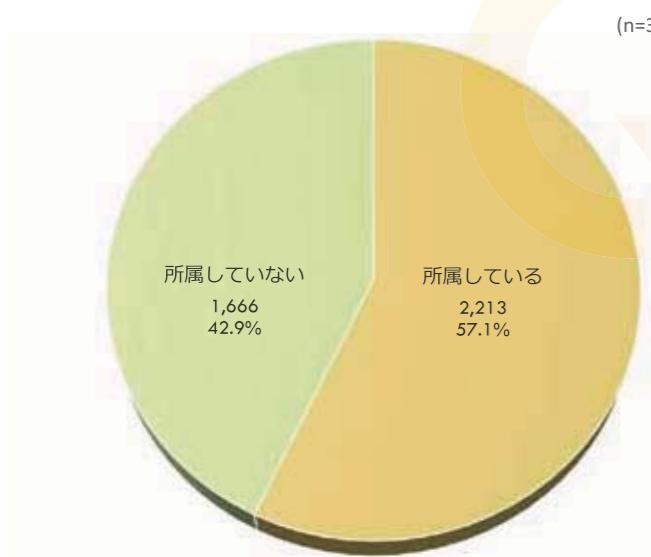
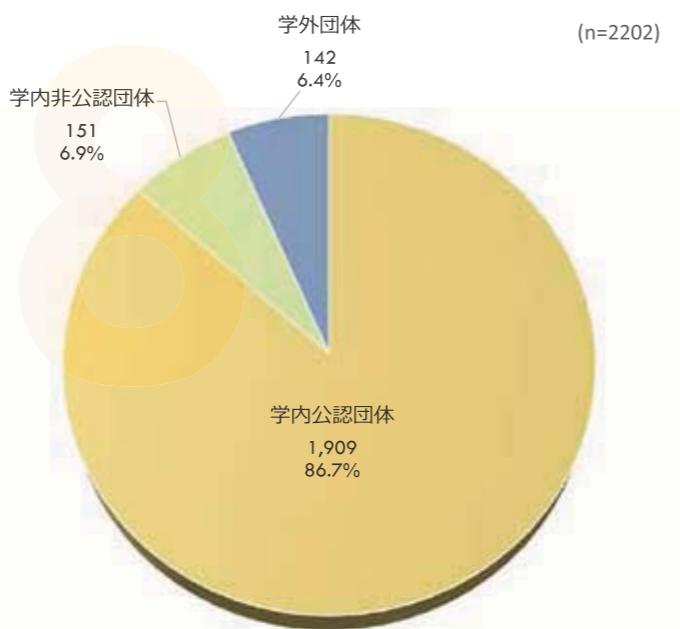
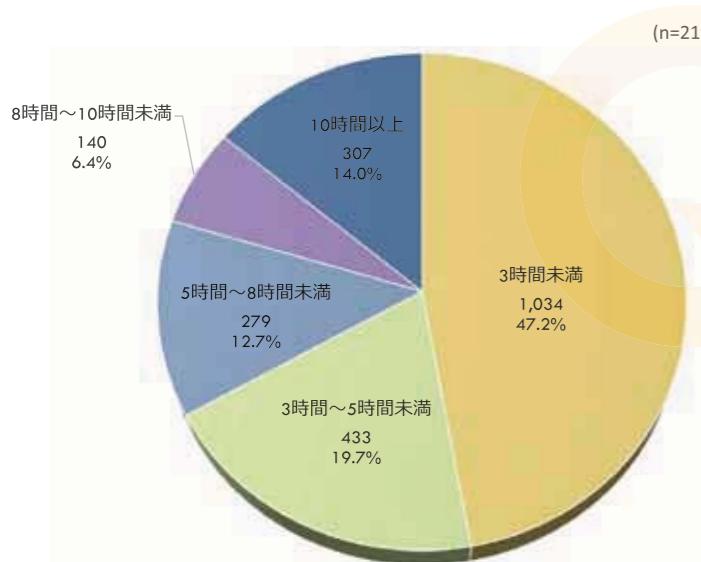
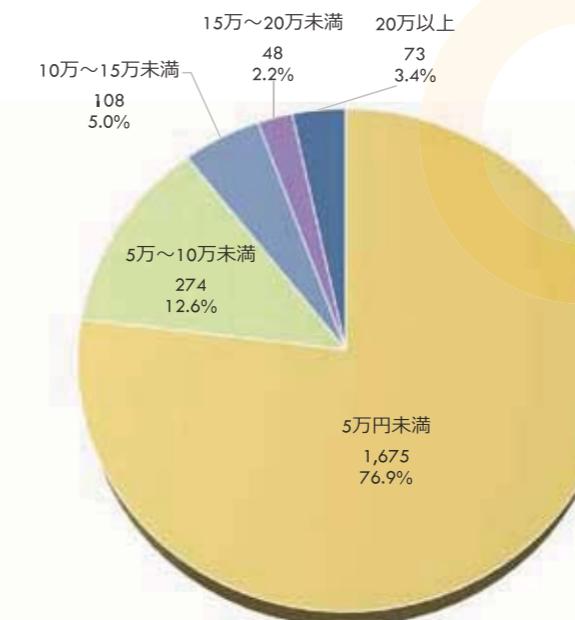
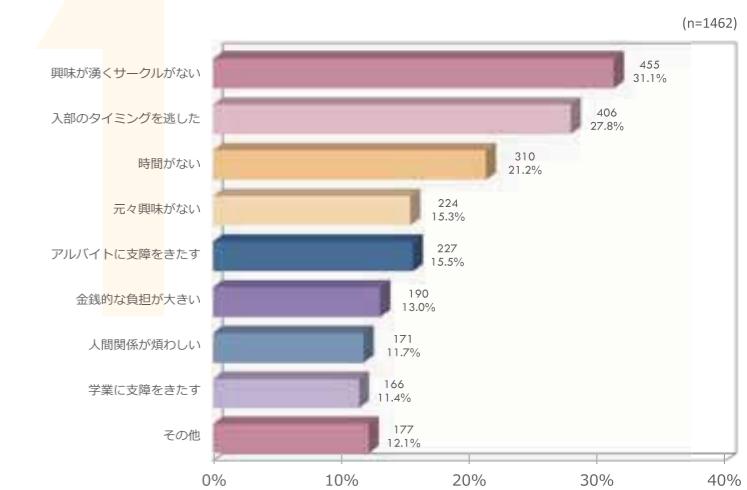
26. 図書館内で充実・改善が必要だと思うことは何ですか?(複数回答可)



図書館の利用状況は芳しくありませんでした。「ほとんど利用しない」(44.2%)と「利用したことがない」(5.7%)を合わせると、およそ50%にも上りました。「自学自習」(57.4%)、「図書の貸出・閲覧」(43.4%)を目的に利用されるケースが多いのに対し、他の利用の割合は低位に留まっています。如何にすれば、図書館の利用者は増えるのでしょうか。改善要望として、「飲食可能スペースの充実」(29.6%)など、勉強とは直接関係のないものも挙げられている点が、大変興味深いです。

部活・サークルについて

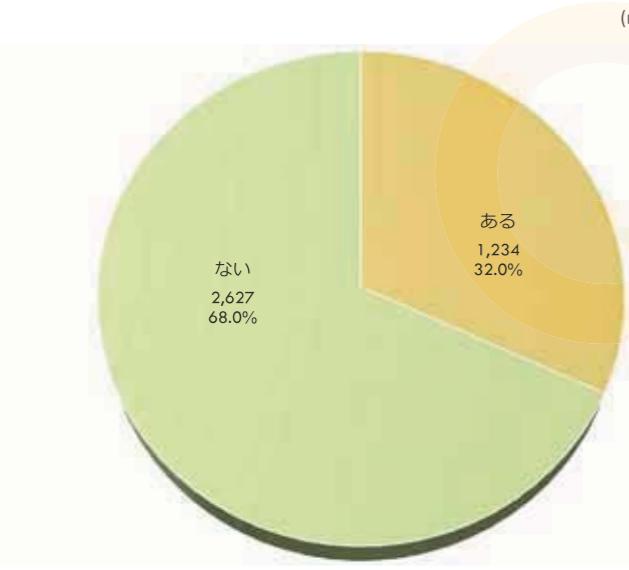
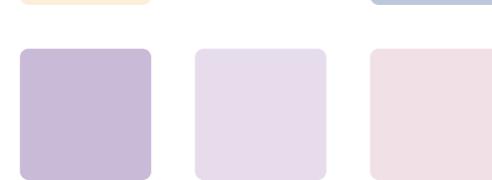
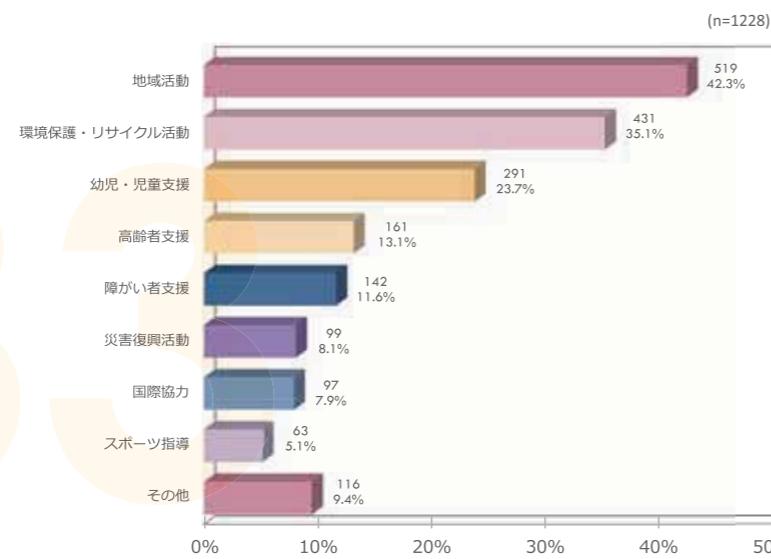
27. 部活・サークル等の課外活動団体に所属していますか?

28. (27で「所属している」と答えた人にお伺いします)
どのような課外活動団体に所属していますか?29. (27で「所属している」と答えた人にお伺いします)
平均的に1週間でどれくらい課外活動をしていますか?30. (27で「所属している」と答えた人にお伺いします)
あなたの年間活動費(部費等)はいくらですか?31. (27で「所属していない」と答えた人にお伺いします)
参加していない理由はどのようなものですか?(複数回答可)

部活・サークルに所属している学生は約60%と、思ったほど多くはないことがわかりました。「興味が湧くサークルがないこと」(31.1%)、「入部のタイミングを逃したこと」(27.8%)などが、その原因となっているようです。また、それらへの所属は、時間面・金銭面で学生生活に負の影響を与えると考えられますが、それほど大きな影響を与えてはいないことが、アンケート結果からわかりました。

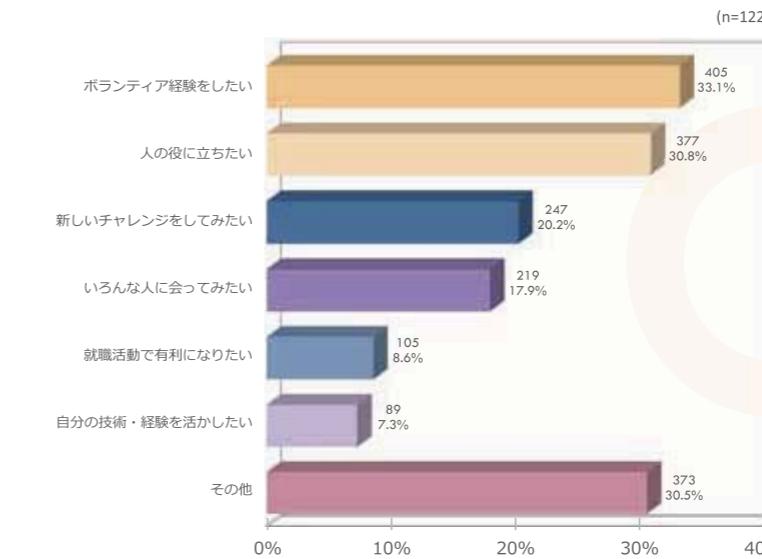
社会貢献活動について

32. ボランティア活動を経験したことがありますか?

33. (32で「ある」と答えた人にお伺いします)
どのようなボランティアですか?(複数回答可)

34. (32で「ある」と答えた人にお伺いします)

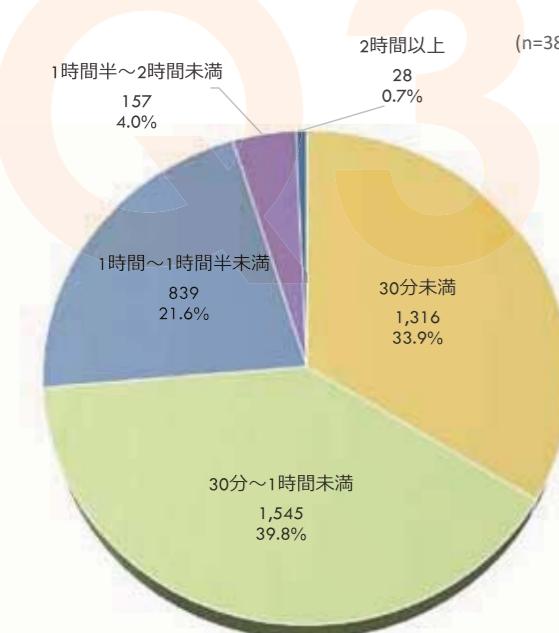
参加動機は何ですか?(複数回答可)

35. (32で「ない」と答えた人にお伺いします)
参加経験がない理由は何ですか?(複数回答可)

およそ3人に1人の学生が、ボランティア活動に参加した経験があるという結果でした。活動内容は様々ですが、「地域活動」(42.3%)や「環境保護・リサイクル活動」(35.1%)への参加が多くみられました。「社会に役立つことをしたい」という思いから参加する学生が多いことが、結果から読み取れました。また、参加したことないと回答した学生も、きっかけ次第では、今後参加する可能性もあるようです。

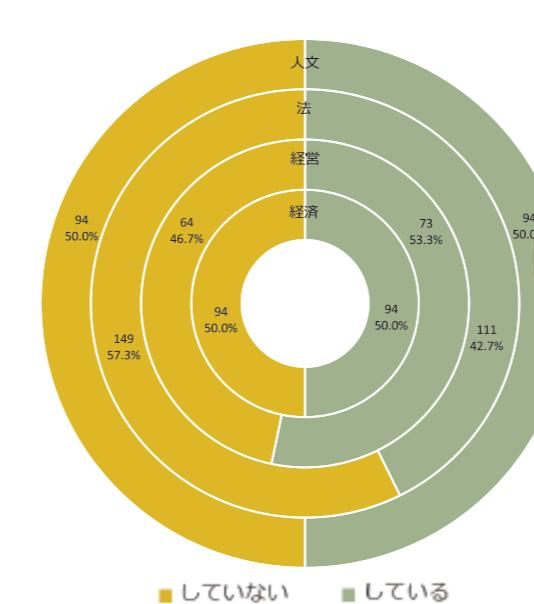
学生生活 住居・生活の状況について

36. 大学までの通学時間はどれくらいですか?

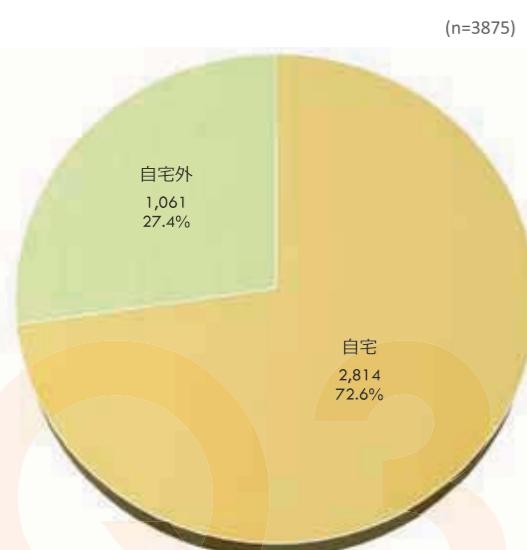


仕事・アルバイトについて

39. (2部学生の方にお伺いします) 現在、お仕事をしていますか?

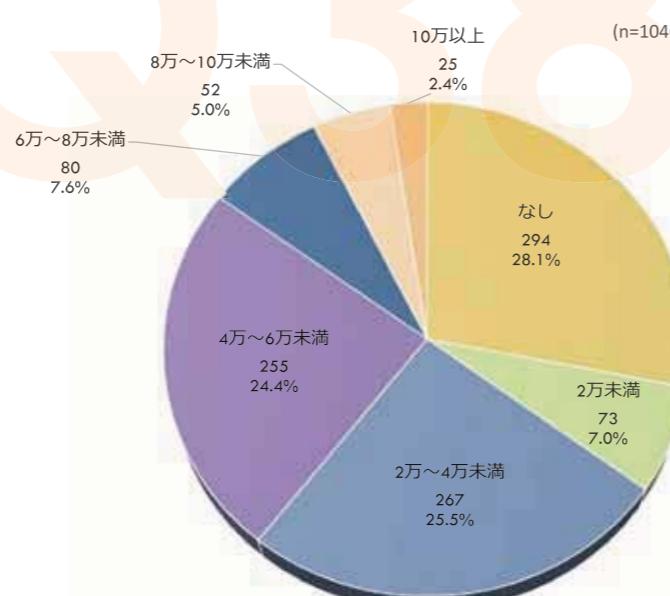


37. 現在のお住まいは自宅ですか、それとも自宅外ですか?

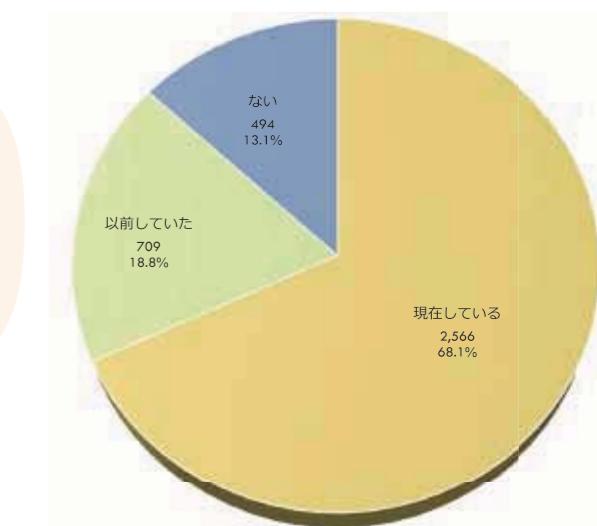


自宅からの通学者が多いにもかかわらず、大学までの通学時間が1時間未満であるとの回答が、およそ4分の3を占めました。地下鉄へのアクセスの良さが、大きく影響していると思われます。自宅外と答えた学生を対象に、仕送り額を聞いたところ、「なし」が28.1%にも上るなど、家計の厳しさが現れた結果ではないでしょうか。こうした状況が、アルバイトの長時間化、ひいては、勉強の短時間化につながることが懸念されます。

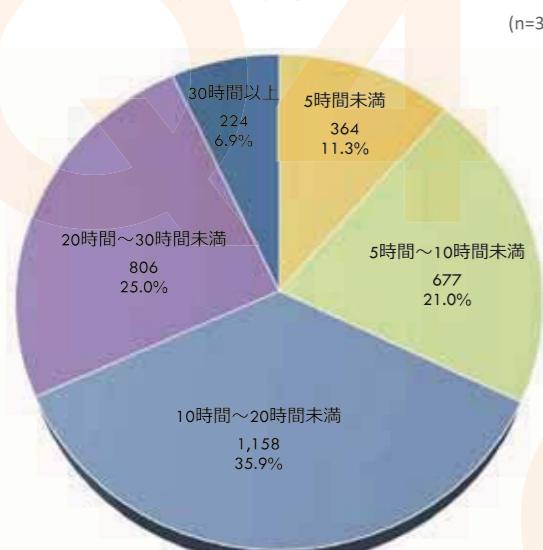
38. (37で「自宅外」と答えた方にお伺いします)
仕送り額は月額いくらですか?(学費分を除く)



40. アルバイトをしたことがありますか?(在学期間中)



41. (40.で「現在している・以前していた」と答えた人にお伺いします)
アルバイトの勤務時間は1週間平均で何時間くらいですか?

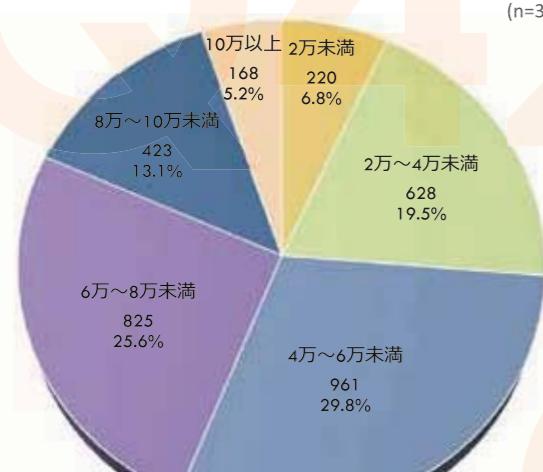


45. (40.で「現在している・以前していた」と答えた人にお伺いします)
アルバイト給与の主な使途は何ですか?(複数回答可)

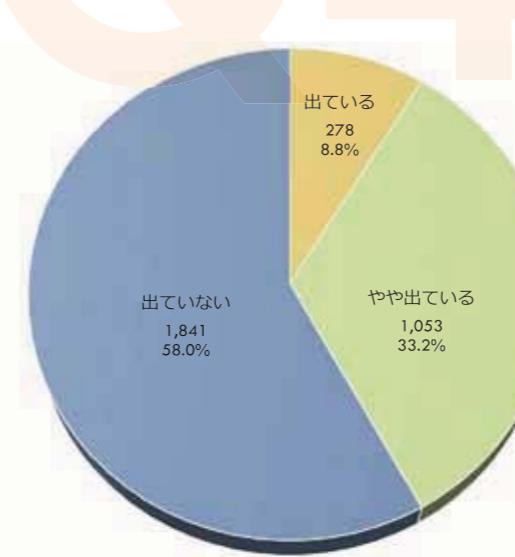


2部学生のうち、仕事をしている学生の割合は、経済学部・経営学部・人文学部ではそれほど差はないものの、法学部では少ないことがわかりました(42.7%)。全学生を対象としたアルバイト状況に関する設問の回答結果から、現在68.1%の学生が何らかのアルバイトをしていること、しかも週10時間を超えるアルバイトに従事していることがわかりました。当然ではありますが、その結果として、高収入を得ている学生の割合は高くなっています。労働期間・時間の現状を明らかにする設問(これまでの経験も含めた設問としました)の回答結果から、短期間ではなく、通年でアルバイトをするケースが多いこと、1部学生と2部学生とでは、労働時間が大きく異なることがわかりました。在学時間帯が異なるため当然の結果ではありますが、「22～7時」にアルバイトをする2部学生の多さが気になります(13.8%)。もっとも、同時間帯で働く1部学生が6.0%に上っています。「アルバイトによって学業に支障が出ている」ことを感じている学生が、40%を超えているという状況も合わせ、この状況を重くみなければなりません。アルバイトの目的については、「娯楽・交際費」がトップ(75.5%)ではありましたが、「食費」「交通費」「教材費」「学費」のためといった回答が、予想以上に多い結果でした。

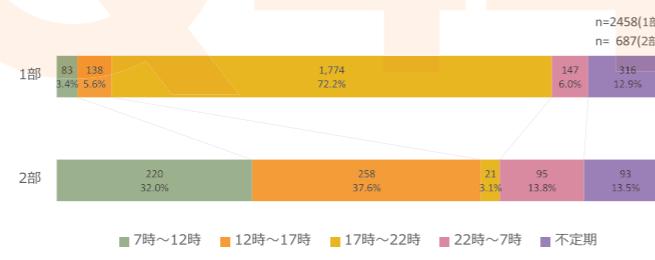
42. (40.で「現在している・以前していた」と答えた人にお伺いします)
アルバイトの平均月収はどれくらいですか?



46. (40.で「現在している・以前していた」と答えた人にお伺いします)
アルバイトによって学業に支障が出ていますか?

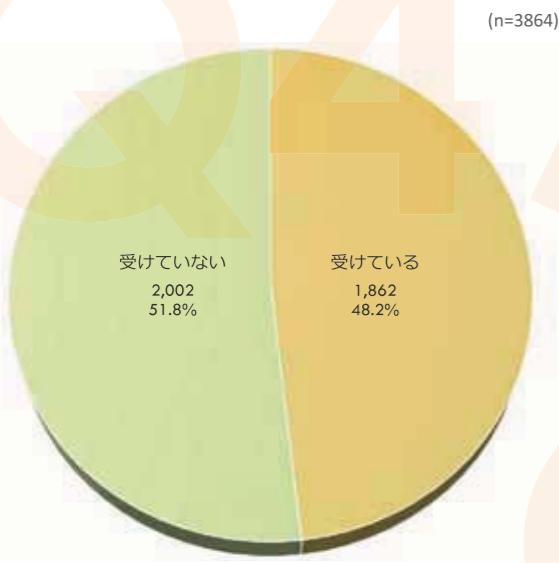


44. (40.で「現在している・以前していた」と答えた人にお伺いします)
アルバイトの勤務時間帯はどの時間帯が多いですか?

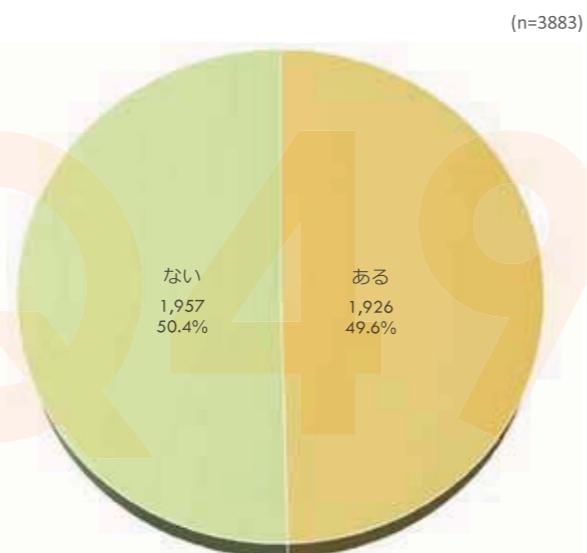
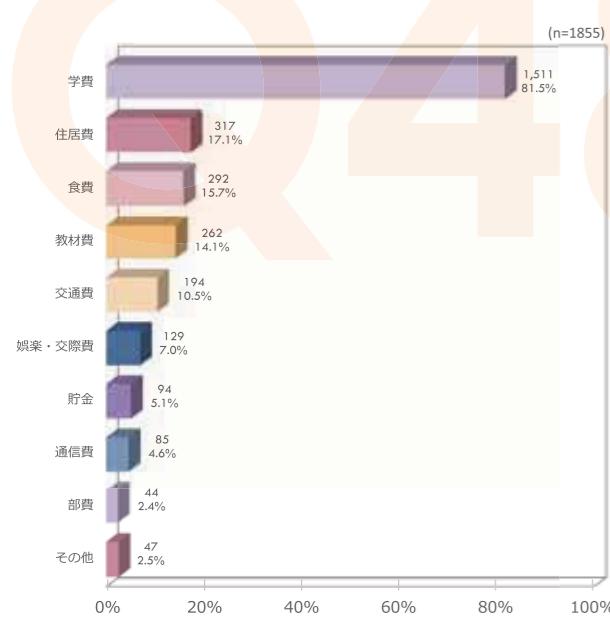
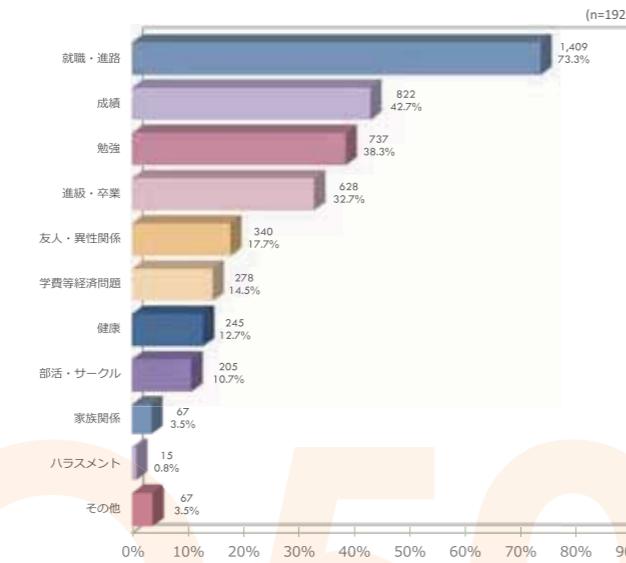


奨学金について 心身の健康について

47. 奨学金を受けていますか?



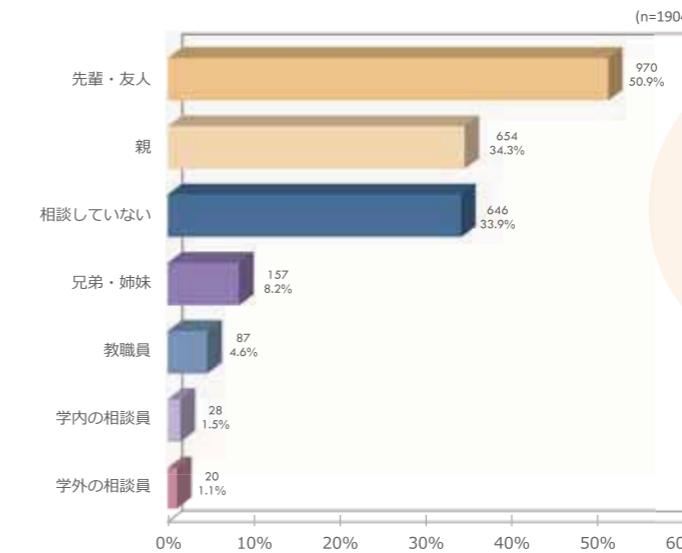
49. 学生生活上の悩みや不安がありますか?

48. (47.で「受けている」と答えた人にお伺いします)
奨学金の主な使途は何ですか?(複数回答可)50. (49.で「ある」と答えた人にお伺いします)
学生生活上の悩みや不安とはどのようなものですか?(複数回答可)

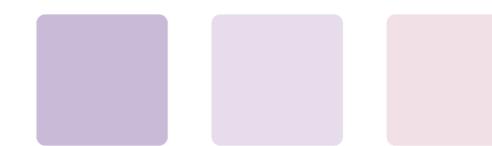
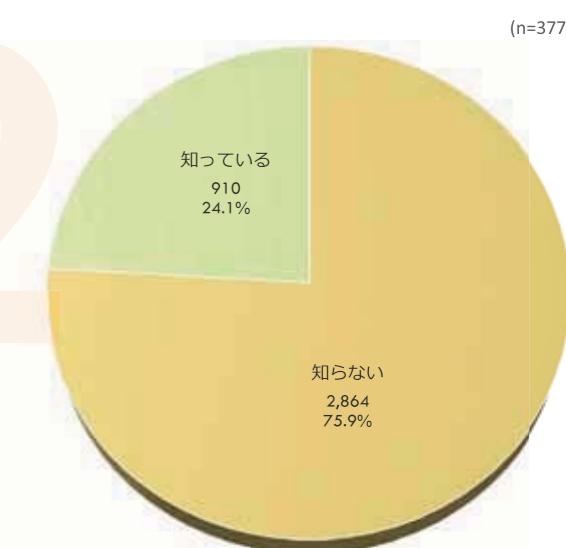
奨学金については、およそ半数の学生が受給している状況にあることがわかりました。併せて使途状況も調査をしましたが、学費の充當といった、適切な使われ方がなされていることがわかりました。

51. (49.で「ある」と答えた人にお伺いします)

学生生活上の悩みや不安を誰に相談しましたか?(複数回答可)



52. 大学内に心の相談室(心理カウンセラー対応)があることを知っていますか?

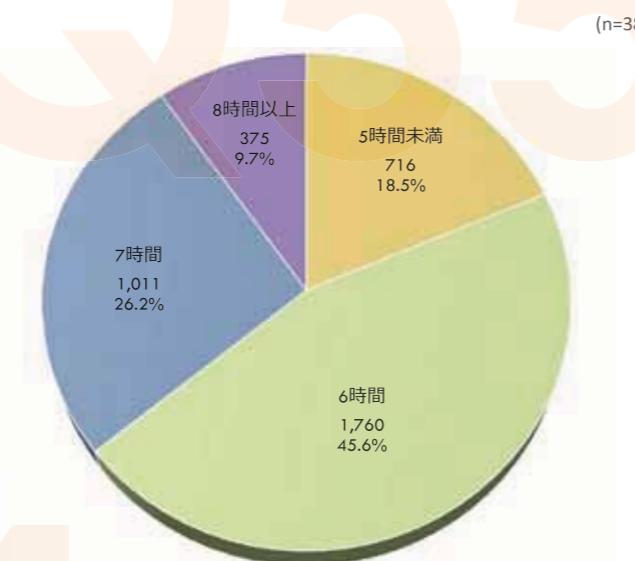


学生生活 心身の健康について

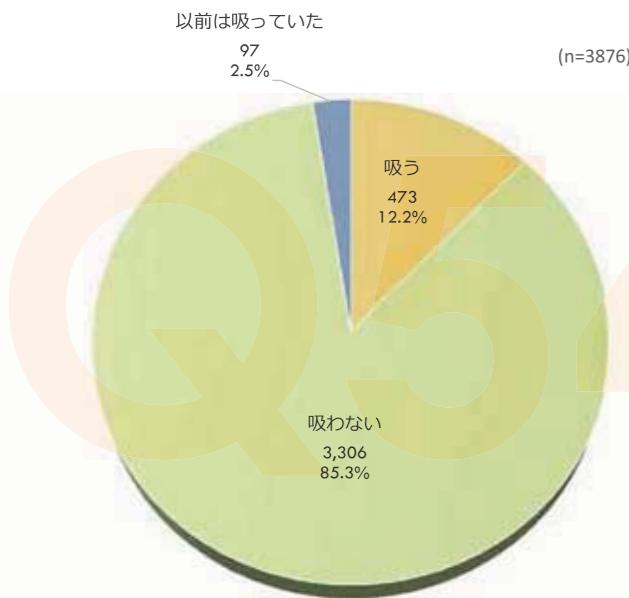
53. (50.で「健康(に悩みや不安がある)」と答えた人にお伺いします)
どのような症状ですか?(複数回答可)



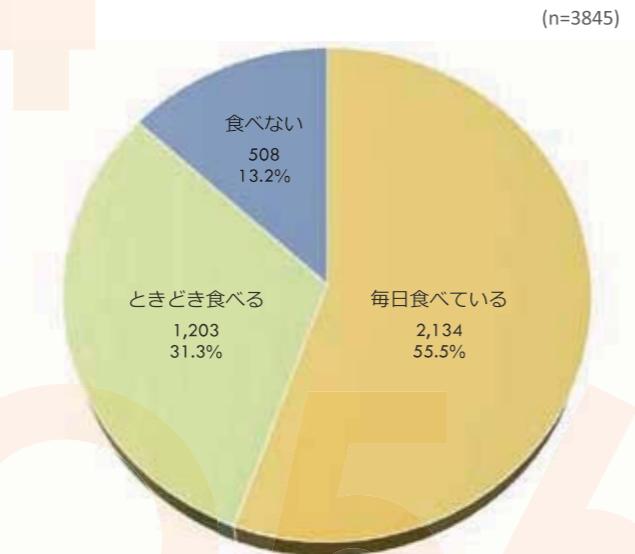
55. 1日の睡眠時間はどれくらいですか?



54. たばこを吸いますか?

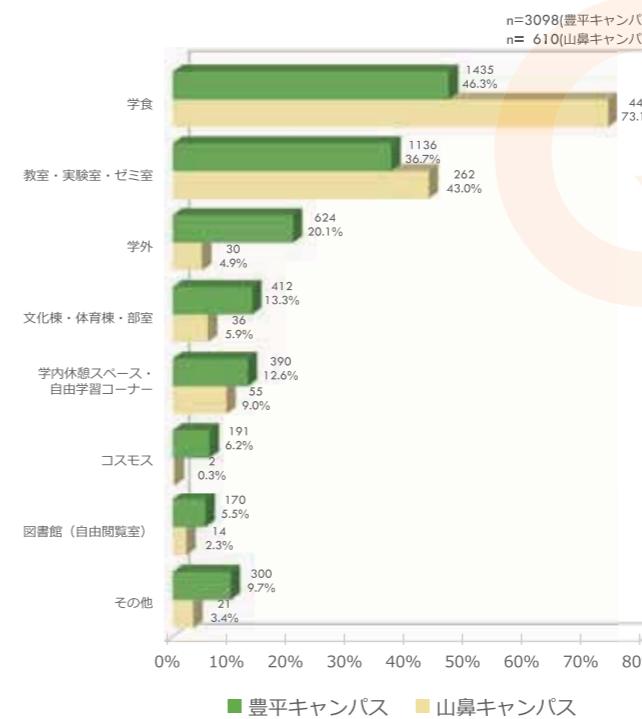


56. 朝食は食べていますか?



学内施設について

57. 昼食時に主に利用する施設はどこですか?(3つ以内で回答)



学生が抱える心身の問題についても調査をしました。現在、半数の学生(49.6%)が何らかの悩みをもっています。その悩みは、「就職・進路」(73.3%)、「成績」(42.7%)、「勉強」(38.3%)、「進級・卒業」(32.7%)に関するものである場合が多い結果でした。悩みごとは、一人で抱え込まずに、誰かに相談すべきと考えられるものの、「先輩・友人」(50.9%)や「親」(34.3%)に相談する学生が多いようですが、「誰にも相談していない」が33.9%に上っていることが気になります。本学では「心の相談室」を開設しており、積極的に利用してもらいたいのですが、存在がほとんど知られていない状況でした(「知らない」が75.9%)。

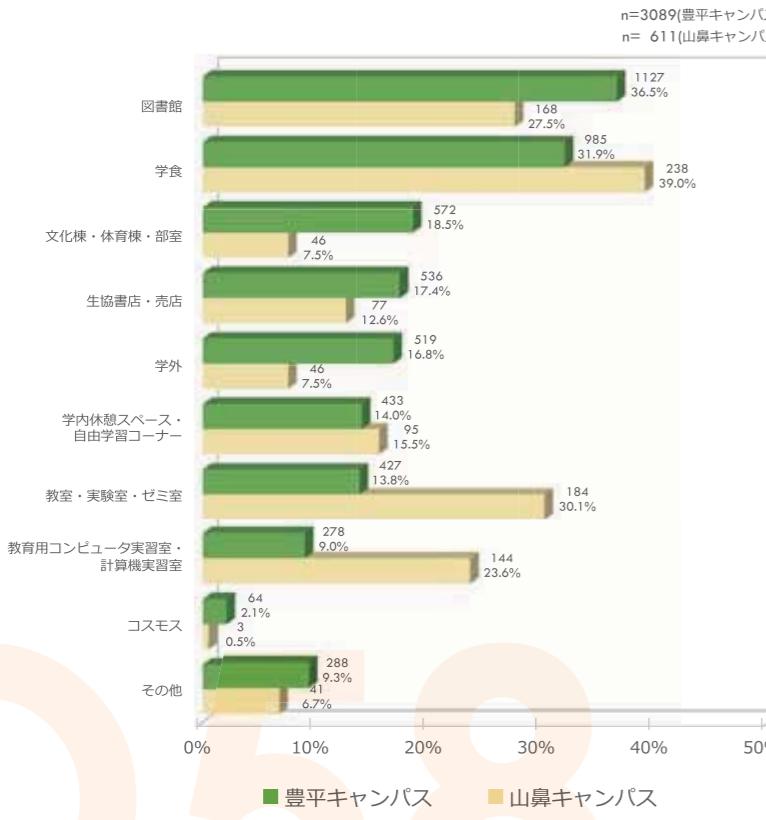
次に健康に関する悩みについてですが、何らかの問題、とりわけ「心の問題」を感じている学生が少なくないことがわかりました。健康状態に関連する設問への回答結果からは、喫煙率が低いこと、理想の睡眠時間とされる7~8時間を確保できていない学生が多いことも明らかとなりました。

また、体調維持には適切な食生活を送ることも重要です。朝食と学習意欲には相関関係があるとの研究成果もあるようですが、本学の学生の50%強が「朝食を毎日食べている」ということがわかりました。これは自宅から通う学生の多さからくる結果かもしれません。昼食時に利用する施設についての調査も併せて行いましたが、「学食」(豊平46.3%、山鼻73.1%)と回答した学生が多い結果であった一方で、「教室・実験室・ゼミ室」(豊平36.7%、山鼻43.0%)も多くの中学生に昼食時に利用されている場所であることがわかりました。

果であった一方で、「教室・実験室・ゼミ室」(豊平36.7%、山鼻43.0%)も多くの中学生に昼食時に利用されている場所であることがわかりました。

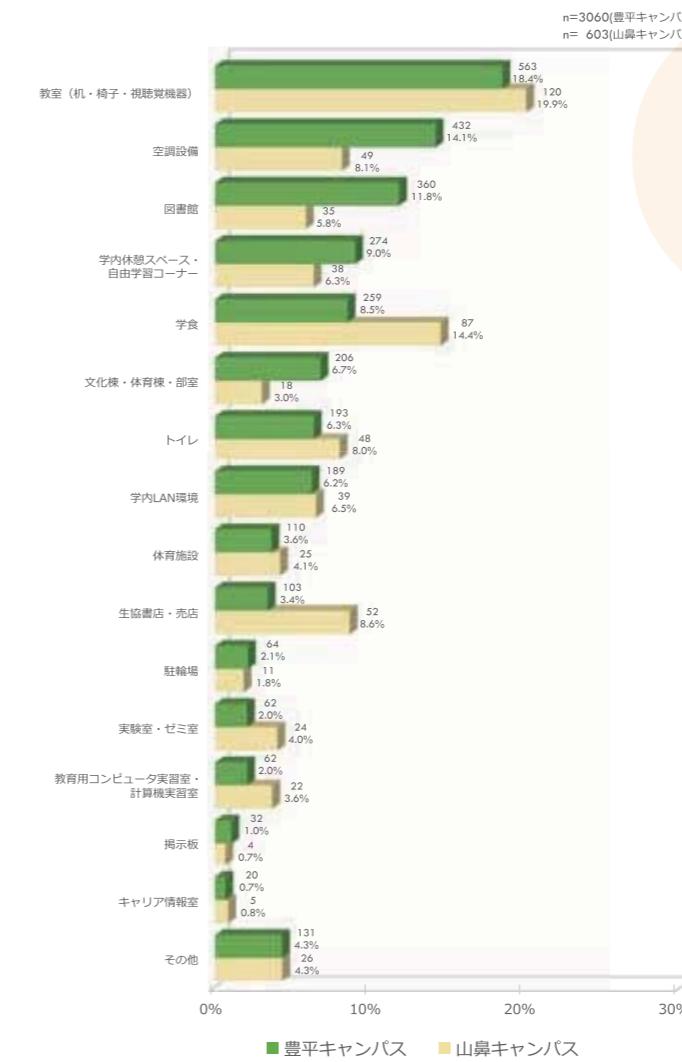
58. 授業と授業の間の空き時間に主に利用する施設はどこですか?

(3つ以内で回答)

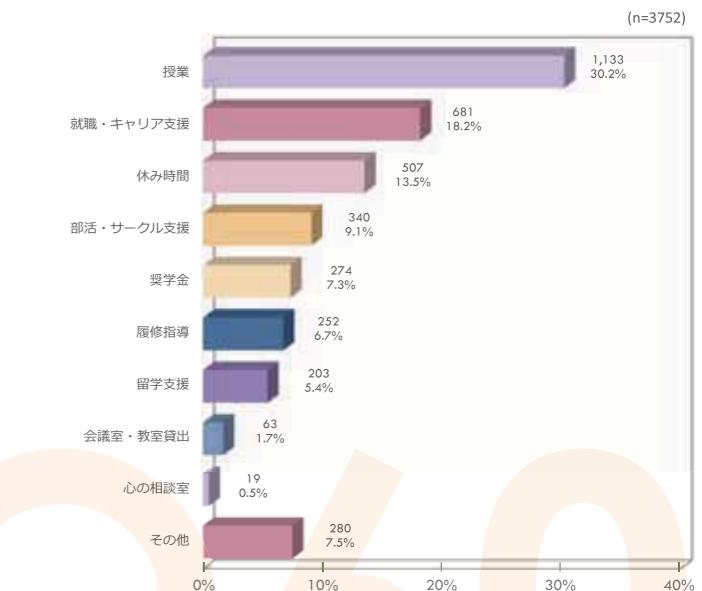


59. 大学内で最も充実・改善を望む施設・設備はどのようなものですか?

(3つ以内で回答)

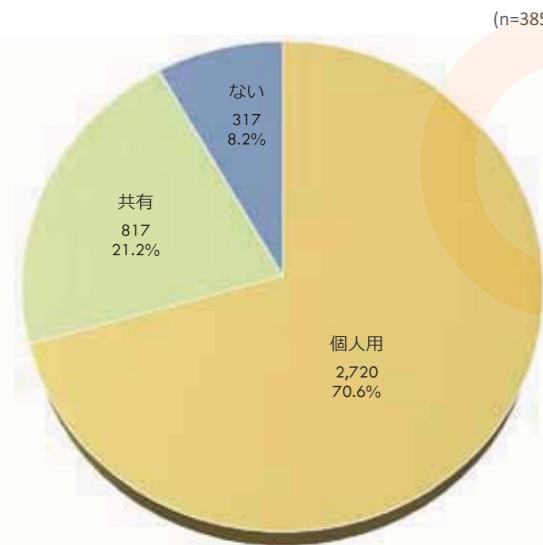


60. 大学内で最も充実・改善を望むサービスはどのようなものですか?

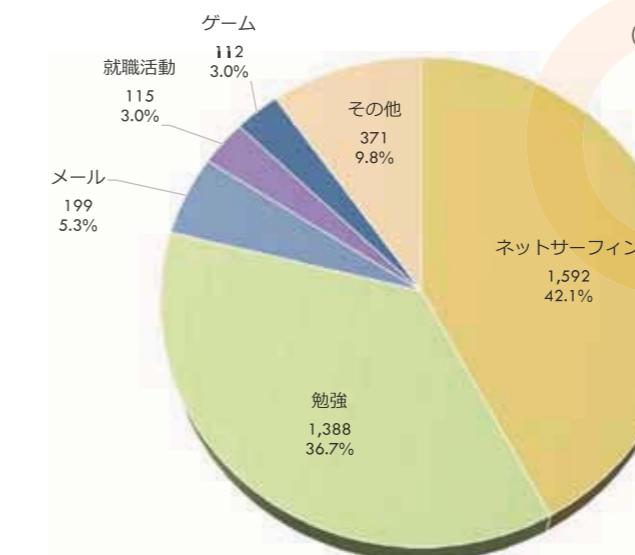
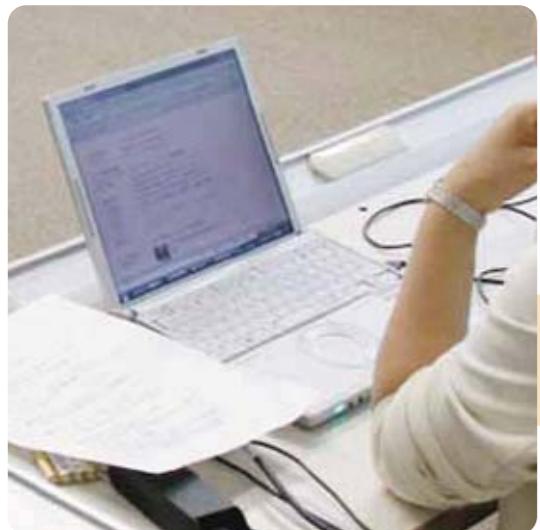
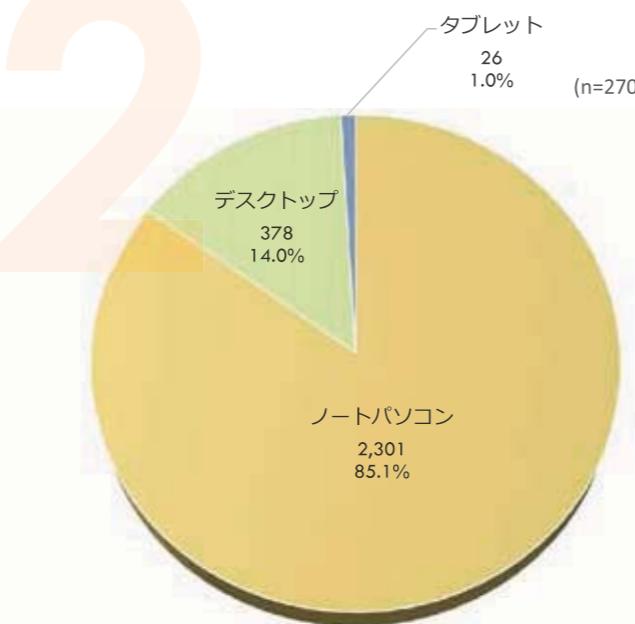


設問59の結果から、学食の改善を求める声が大きいことがわかります。空き時間の居場所としての利用頻度も高い場所でもあるだけに(設問58)、改善努力が求められます。その他に、大学の施設で強く改善が求められているのが、「教室(机・椅子・視聴覚機器)」「空調設備」「図書館」などでした。「ハード」の改善が必要なのか、「ソフト」面での改善が求められているのかを明らかにするための調査が、今後は必要と考えられます(設問59、60)。

61. パソコン(タブレットを含む)を所有していますか?

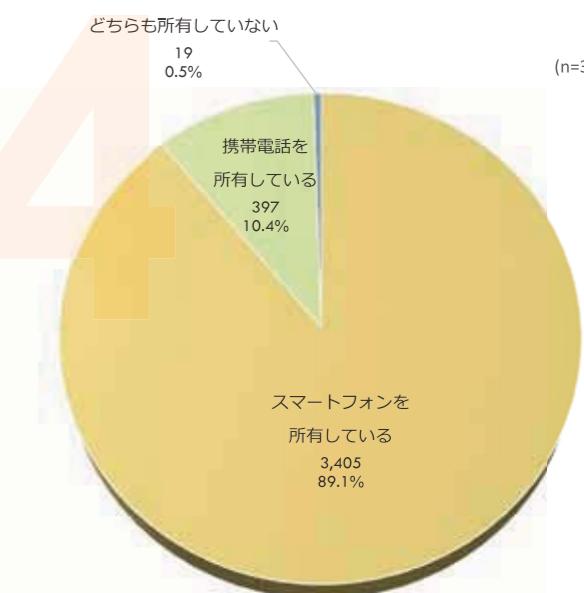


63. パソコンの主な利用目的は何ですか?

62. (61で「個人用としてある」と答えた人にお伺いします)
パソコン(タブレット含む)はどのようなものですか?

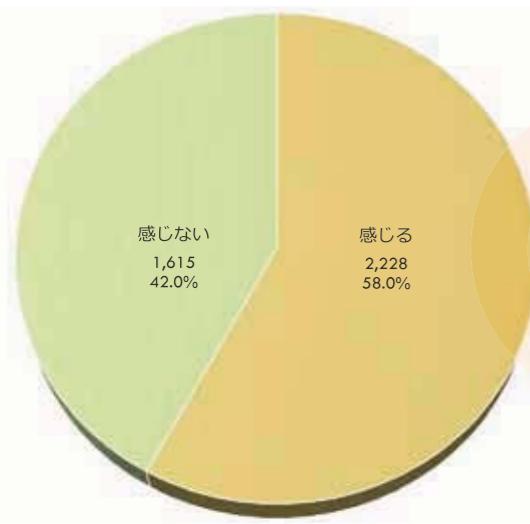
学生のデジタル機器の利用状況についても、調査を行いました。パソコンについては、自分専用のノートパソコンを所有・使用するという状況が進んでいることがわかりました。ただし、「ネットサーフィン」が使用主目的となっており、勉強のために利活用するという学生は、4割弱にとどまっていました。近年、パソコンと並んで急速に普及したデジタル機器の1つが、スマートフォンです。本学でも約9割の学生が、それを所有している状況でした。先に「双方向授業」が求められていることを指摘しましたが、スマートフォンの普及がここまで進んでいるとすれば、これを有効活用した双方向授業の新たな展開を検討してもよい時期にきているのかもしれません。

64. スマートフォン・携帯電話を所有していますか?



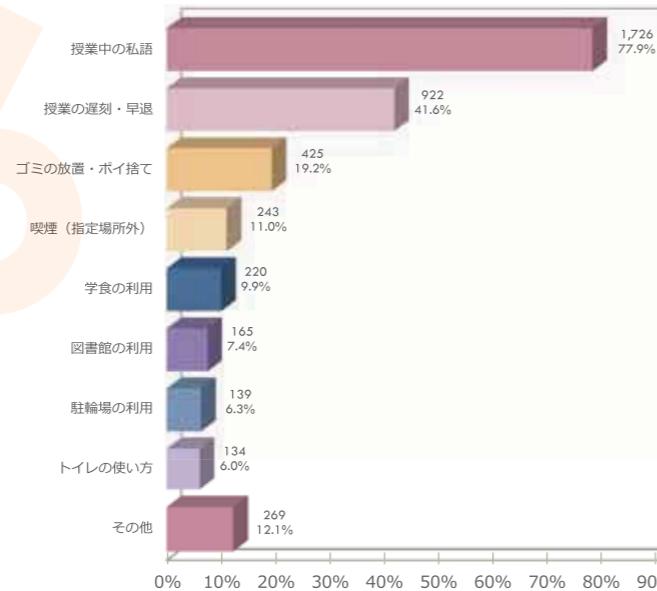
65. 北海学園大学生のモラル・マナーの低下・欠如を感じますか?

(n=3843)



66. (65で「感じる」と答えた人にお伺いします)
どのようなところに感じますか?(複数回答可)

(n=2216)



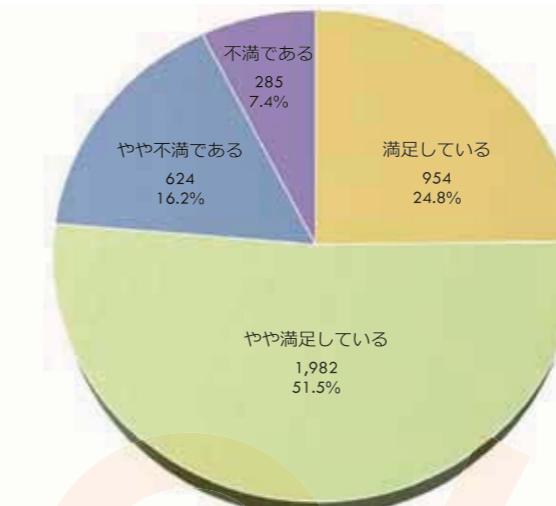
学生自身、近年の学生をどう評価しているのでしょうか。モラル・マナーが低いと感じている学生の割合は、およそ6割を占めました。とりわけ「私語」(77.9%)、「遅刻・早退」(41.6%)といった、授業態度の悪さを指摘する回答が多くみられました。



大学について

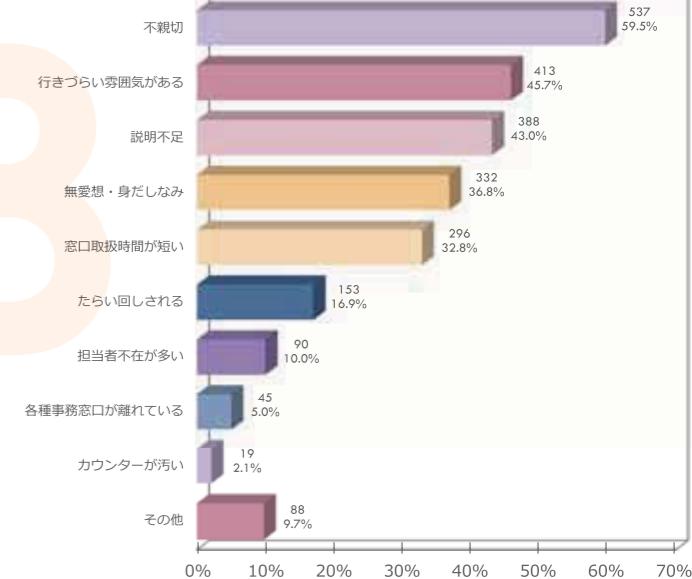
67. 各種事務対応に満足していますか?

(n=3845)



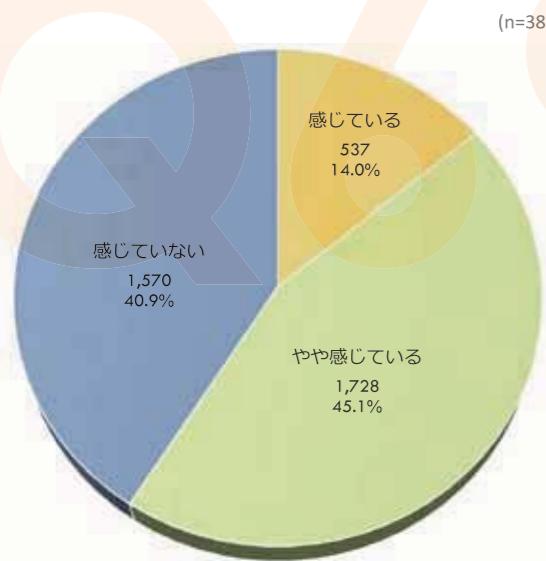
68. (67で「やや不満である・不満である」と答えた人にお伺いします)
それはどのような点ですか?(複数回答可)

(n=903)

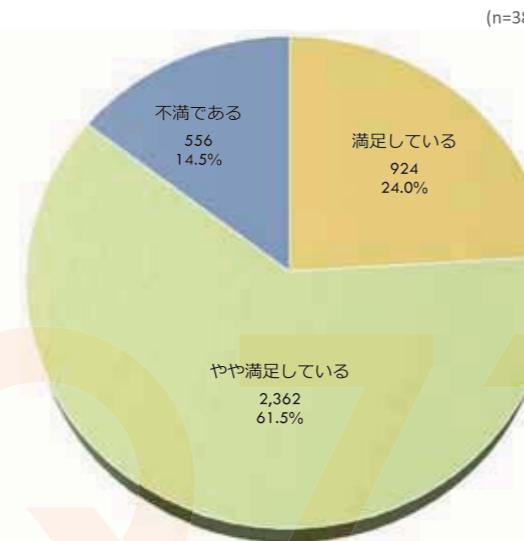


併せて、学生による大学事務職員への評価についても質問しました。その結果、「満足している」が24.8%、「やや満足している」が51.5%となり、おおむね高く評価していることがわかりました。とはいっても、不満点が全くないわけではなく、「不親切」(59.5%)、「行きづらい雰囲気がある」(45.7%)、「説明不足」(43.0%)、「無愛想・身だしなみ」(36.8%)など、今後より良いサービスを提供していく上で参考になる、有益な情報が得られました。

69. 大学に親しみ(帰属意識等)を感じていますか?

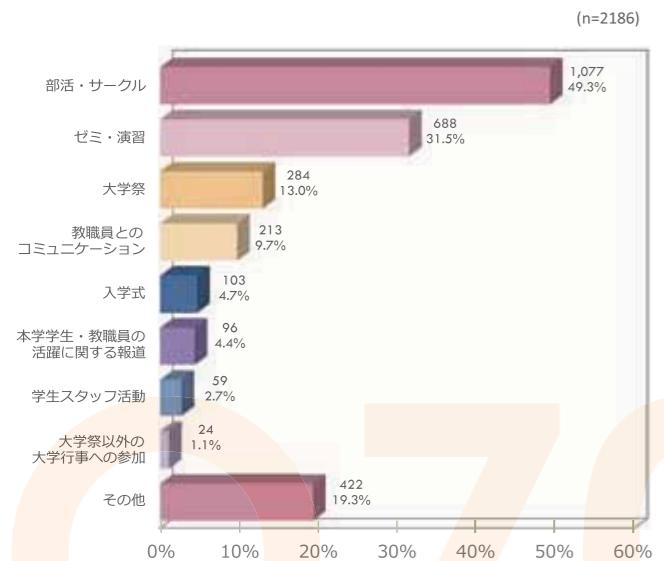


71. 総合的に北海学園大学の学生生活に満足していますか?



70. (69で「感じている・やや感じている」と答えた人にお伺いします)

それはどのような経験からですか?(複数回答可)



最後に、大学への帰属意識(親しみ)の度合について聞きました。程度の差はあるにせよ、約6割の学生が帰属意識を持っているようです。とくに「部活・サークル」(49.3%)、「ゼミ・演習」(31.5%)にそれを感じる学生が多い結果でした。大学への満足度は高いようですが(設問71)、これを一層高めるための策を講じるとすれば、「組織」がキーワードになるのかもしれません。





2013

2014年3月発行

編集 2013年度教育開発運営委員会

発行 北海学園大学

豊平キャンパス 札幌市豊平区旭町4丁目1-40

山鼻キャンパス 札幌市中央区南26条西11-1-1